

# 連覇

11月25日に関東大学サッカーリーグ戦の全日程が終了。専大は13勝5分4敗の勝ち点44で優勝し、リーグ戦連覇を達成した。次は全日本大学選手権(インカレ)での連覇を目指す。

個人賞では、MVPを鈴木雄也主将(経済4・武相高)、アシスト王とベストイレブンをDFの鈴木主将、MFの清水東高(法4)が挙げ、DFの栗山直樹(法4)がゴールキーパーとして活躍し、FWの仲川輝人選手(商2・日体在)が選出された。

連覇への道のりは決して平坦なものではなかった。静岡学園高が受賞。

## 鈴木主将がMVP 新人賞に萩間、福島

# サッカー・関東大学リーグ戦



▲ 連覇を達成したサッカー部 (撮影・鈴木)

## いざ全日本大学選手権連覇へ

参加でセトップから得点も挙げた。また長澤、下田、仲川らが中心となり専大らしい攻撃力を発揮し、終始トップの座を守り続けた。

首位攻防戦となった第21節の早大戦では、前半20分に先制されるが後半のうちに逆転。後半に同点とされ、一進一退の展開となったが、前半(経営2・清水商高)の値千金のゴールで勝ち越し3-2で勝利した。

鈴木主将は「昨年とは違い、負けている展開からでも追いつくことができた」と成長を実感していた。源平貴久監督は「対戦チームのモチベーションも高い、しっかり対策が立てられていた。しかし、長澤、下田、仲川たちの成長のおかげで勝つてこられた。GK福島の好セーブにも助けられた」と、チャンピオンとして臨んだ今シーズンを振り返った。



▲ 攻撃の中心となった長澤 (撮影・鈴木)



▲ MVPに輝いた鈴木主将 (撮影・鈴木)

## 馬術・全日本学生三大会 総合馬術競技個人で植田主将が優勝

### 馬場馬術競技は坂口が準優勝

11月2日から7日までJRA馬事公苑で、全日本学生馬術三大会が行われた。個人では総合馬術競技で植田俊輔主将(商4・倉敷鷺羽高)が優勝。馬場馬術競技では坂口智康(経済4・八女工業高)・フィロソファール(大鳴輝・文2)が準優勝した。

また、団体では総合馬術競技で3位、障害飛越競技で8位となり、3種目総合で3位に入賞した。



▲ 4年間の集大成を發揮した植田主将 (写真提供・池田理氏)

手との対戦で、自信はあったが、自分が先に演技したので相手の結果が出るまで緊張した。優勝できてとてもうれしい」と語り、「日ごろのトレーニングもあるが、エンドーペロー号が頑張ってくれたこと、周囲の方々から1年次生のころから支えてくれたことが大きい。それだけにプレッシャーも大きかったが、とても感謝している」と4年間を総括した。

また坂口は「予選を1位で通過したので自信を持って試合に臨めた。最後の大会で準優勝という結果に終わったのはすごく残念だが、自分では最高の演技が披露できたと思う。悔いはない」と語った。

(大鳴輝・文2)

## バレーボール・全日本大学選手権 東海大下し初のベスト4

12月3日から9日まで、全日本バレーボール選手権が行われ、専大は創部以来初となるベスト4入りを果たした。

決勝トーナメント2回戦からの出場となった専大は初戦の愛媛大、3回戦の国士大、4回戦の東京大学芸大に危なげなく勝利(商3・都城工高)のサポートで、準々決勝で今夏



▲ 来季のキーマンとなるセッターの山本 (撮影・森本)



▶ 歓喜の瞬間 (撮影・森本)

ジュニア選手権でも活躍した藤中謙也(経営1・宇部商高)、高橋拓也(経済1・東亜学園高)のブロックなどで東海大を苦しめ、セットカウント3-1で勝利した。

準決勝でもこの勢いでたかったが下級生にとっては3位で笑って終わるよりも、よい経験を積めたいと思うので、来年に仕上げたい。また、来季のキーマンとして山本湧(商2・東亜学園高)の名を挙げ、「彼の成長が力を与えてくれる」と話した。

(村上 大晃・文2)

## 壮行会でエール

体育会本部主催の「関東大学リーグ戦優勝報告会・インカレ出場壮行会」が12月13日、生田キャンパスで行われた。約500人の学生や教職員は、全学応援団とともに選手へ熱いエールを送った。写真。



## インカレ日程

【1回戦】▽12月19日(水) 13時50分▽ShonanBMWスタジアム平塚▽対関西大学

12月19日からインカレも始まる。準優勝に終わった総理大臣杯(全日本大学トーナメント)の雪

大会結果 予定は体育会ホームページ 専大ホームページ スポーツからアクセスで確認ください 専大スポーツ編集部 web(http://sensupo.web.fc2.com) でも大会結果を配信しています

No.321